

# 平成17年3月期 決算説明資料



**FUJITOMI**  
株式会社フジトミ



JASDAQ上場:証券コード8740

# ◆ 目次



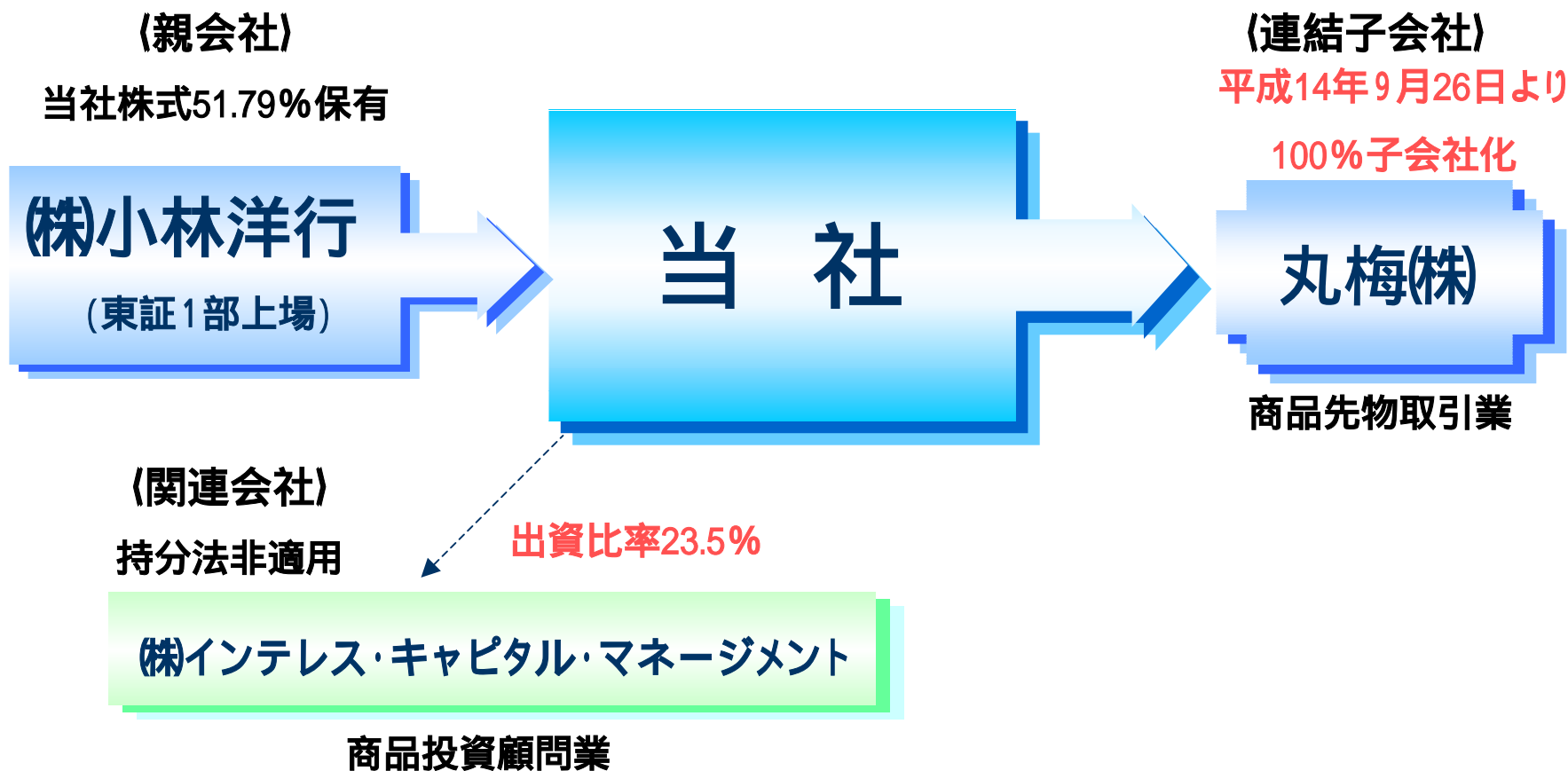
グループ概要	…	1
平成17年3月期決算概要 / 表紙	…	2
平成17年3月期決算の総括	…	3
業績概況(連結)	…	4
業績概況(個別)	…	5
貸借対照表(連結)	…	6
貸借対照表(個別)	…	7
四半期ごとの営業収益の概況(連結)	…	8
業績推移(連結)	…	9
＜商品先物取引＞営業収益の推移	…	10
＜商品先物取引＞営業収益の市場別内訳	…	11
＜外国為替証拠金取引＞営業収益の推移	…	12
平成18年3月期業績について / 表紙	…	13
平成18年3月期業績予想(連結・個別)	…	14
平成18年3月期業績予想について	…	15
当社の取り組み	…	16

本資料は、平成17年3月期の業績等に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。

本資料に掲載されている事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性および完全性を保証または約束するものではありません。

本資料は、6月30日時点でのデータを元に作成しております。

# ◆ グループ概要





# 平成17年3月期決算概要



# 平成17年3月期決算の総括



## < 当社グループの営業成績 >

当連結会計年度の全国商品取引所の出来高合計が前連結会計年度比13.5%減少するなか、当社グループの業績も市場環境の影響を受け、遺憾ながら、次のとおり減収減益となりました。

営業収益	4,406百万円	(前年同期比11.4%減)
経常利益	857百万円	(同 45.0%減)
当期純利益	486百万円	(同 44.0%減)

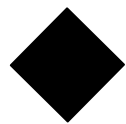
## < 主な減収要因 >

穀物等の価格下落傾向が続いた農産物市場の取扱が落ち込み、また、値動きの激しかった石油市場の取扱を慎重に行った結果、商品先物取引の受託業務に係わる受取手数料が3,352百万円(前年同期比11.0%減)となったことが主な減収要因です。

## < 子会社丸梅㈱の状況 >

丸梅㈱の当連結会計年度の業績は、平成16年1月に受託業務の許可を受けた中部商品取引所(石油市場)の取扱が上乘せされたことに加え、コーヒーの取扱が好調で、次の通りとなりました。

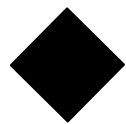
営業収益	1,298百万円	(前年同期比26.8%増)
経常利益	485百万円	(同 41.2%増)
当期純利益	266百万円	(同 38.8%増)



# 業績概況(連結)



(単位:百万円)	H16.3期	H17.3期	対前期増減率(%)
営業収益	4,975	4,406	11.4
内 受取手数料	3,853	3,394	11.9
営業利益	1,547	811	47.6
経常利益	1,557	857	45.0
当期純利益	868	486	44.0
一株当たり当期純利益	123.29円	68.00円	44.8
一株当たり純資産額	1,080.72円	1,146.48円	6.1
自己資本比率	49.6%	48.4%	(points) 1.2
ROE(株主資本利益率)	12.5%	6.4%	(points) 6.1
ROA(総資産利益率)	10.8%	5.3%	(points) 5.5



# 業績概況(個別)

(単位:百万円)	H16.3期	H17.3期	対前期増減率(%)
営業収益	4,012	3,108	22.5
内 受取手数料	3,043	2,195	27.9
営業利益	1,200	322	73.2
経常利益	1,227	389	68.2
当期純利益	690	238	65.5
一株当たり当期純利益	98.75円	33.27円	66.3
一株当たり純資産額	1,046.94円	1,077.96円	3.0
自己資本比率	56.1%	57.3%	(points) 1.2
ROE(株主資本利益率)	10.1%	3.3%	(points) 6.8
ROA(総資産利益率)	9.7%	2.8%	(points) 6.9

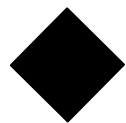
# ◆ 貸借対照表（連結）

(単位:百万円)	H16.3期	H17.3期	対前期増減率(%)
流動資産合計	11,266	12,436	10.4
内 現金及び預金	7,900	7,597	3.8
固定資産合計	3,722	3,848	3.4
内 投資有価証券	905	1,110	22.7
内 投資不動産	762	751	1.4
資産合計	14,989	16,285	8.6
流動負債合計	6,569	7,392	12.5
内 預り委託証拠金	5,590	6,702	19.9
固定負債合計	578	581	0.6
負債合計	7,552	8,400	11.2
資本合計	7,436	7,884	6.0
内 有価証券評価差額金	254	375	47.9

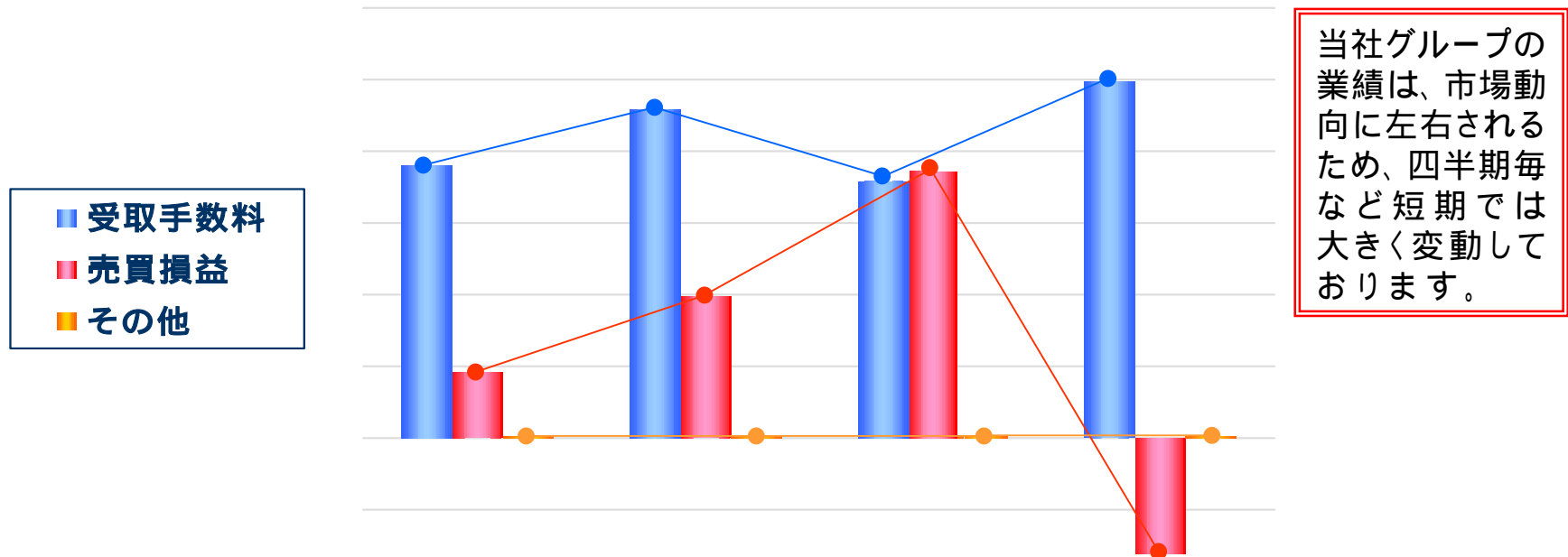


# ◆ 貸借対照表（個別）

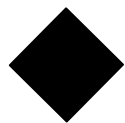
(単位:百万円)	H16.3期	H17.3期	対前期増減率(%)
流動資産合計	8,841	8,848	0.1
内 現金及び預金	5,816	5,503	5.4
固定資産合計	3,991	4,079	2.2
内 投資有価証券	849	1,055	24.2
内 投資不動産	762	751	1.4
資産合計	12,833	12,928	0.7
流動負債合計	4,803	4,711	1.9
内 預り委託証拠金	4,073	4,275	5.0
固定負債合計	461	443	3.8
負債合計	5,637	5,523	2.0
資本合計	7,195	7,404	2.9
内 有価証券評価差額金	254	375	47.9



# 四半期ごとの営業収益の概況(連結)

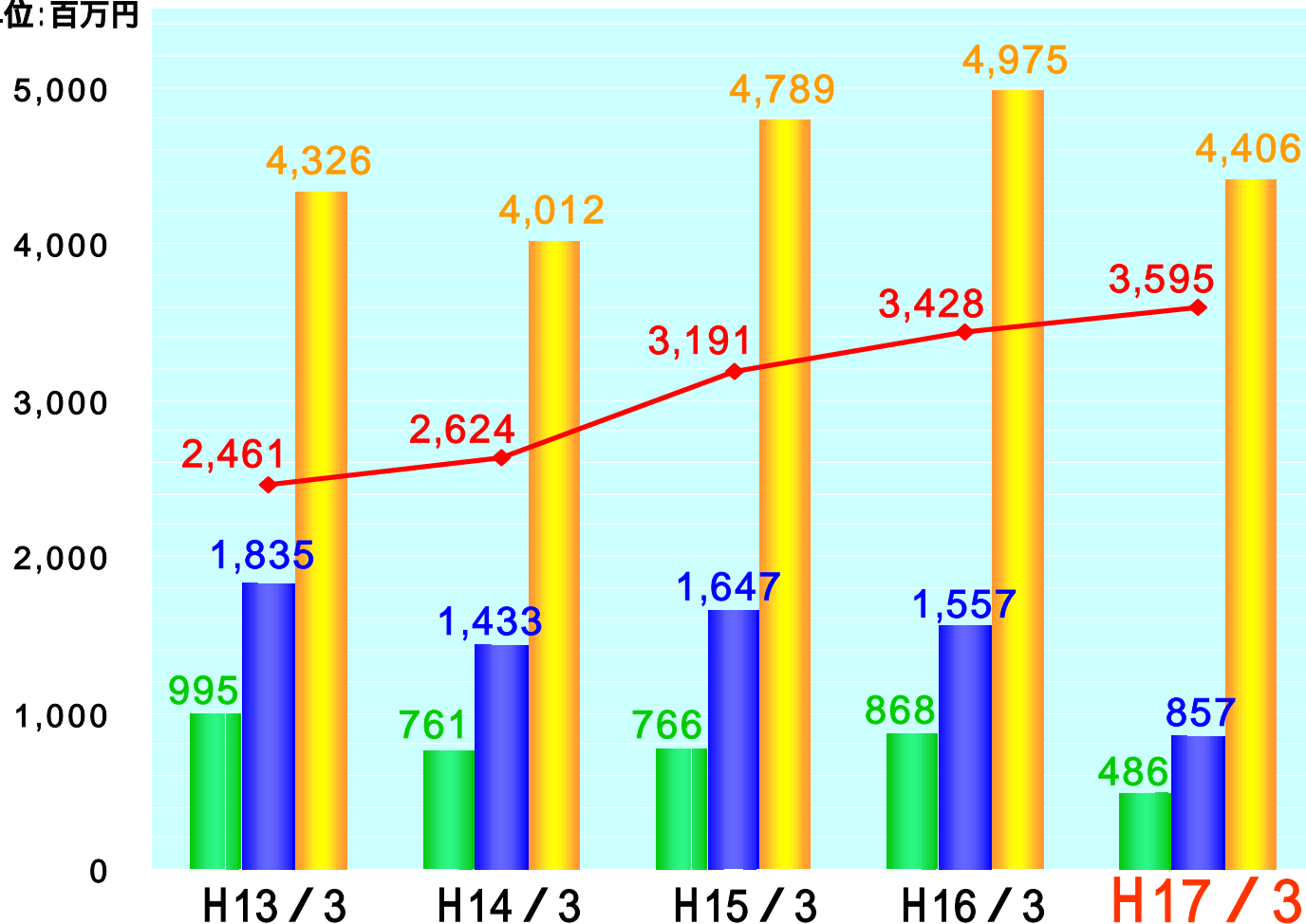


(単位:千円)	H17/3 1Q	H17/3 2Q	H17/3 3Q	H17/3 4Q	H17/3 累計
<b>受取手数料</b>	763,713	918,105	716,157	996,819	3,394,797
商品先物取引	752,341	908,112	707,211	984,596	3,352,261
外国為替証拠金取引	11,372	9,993	8,946	12,223	42,535
<b>売買損益</b>	184,514	394,934	743,678	323,999	999,127
商品先物取引	179,466	391,002	735,752	326,509	979,711
外国為替証拠金取引	5,048	3,931	7,926	2,510	19,415
<b>その他</b>	3,215	2,784	3,437	3,517	12,953



# 業績推移(連結)

単位:百万円



・当社は平成15年3月期より連結財務諸表を作成しておりますので、それ以前は当社単独の業績を記載しております。

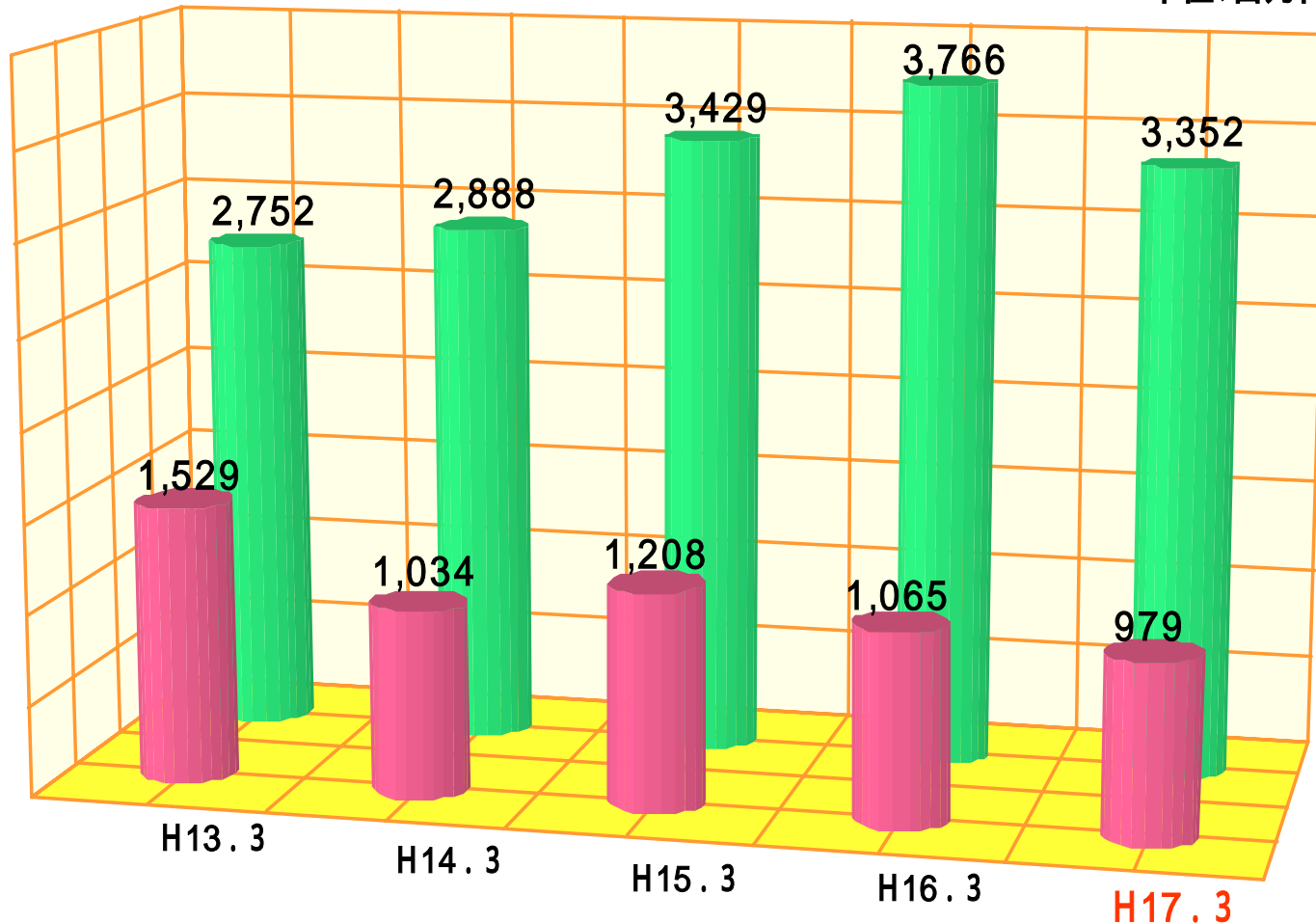
・平成13年3月期の営業収益には時価会計導入初年度の特異要因906百万円が含まれています。

■ 純利益  
■ 経常利益  
■ 営業収益  
◆ 営業費用

# ◆ < 商品先物取引 > 営業収益の推移 (連結)

■ 自己売買損益    ■ 受取手数料

単位: 百万円



・当社は平成15年3月期より連結財務諸表を作成しておりますので、それ以前は当社単独の業績を記載しております。

・平成13年3月期の自己売買損益には時価会計導入初年度の特異要因906百万円が含まれています。

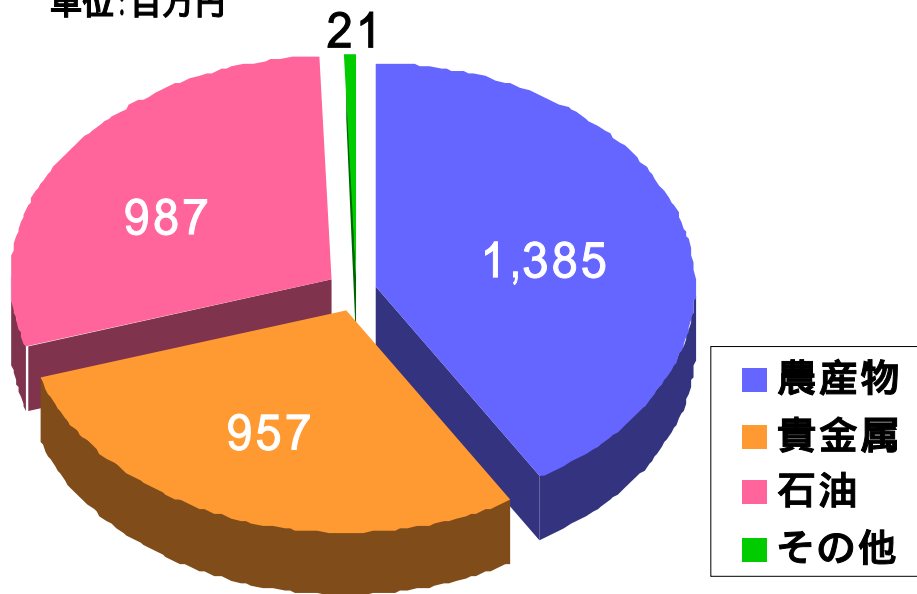


# < 商品先物取引 > 営業収益の市場別内訳 (連結)



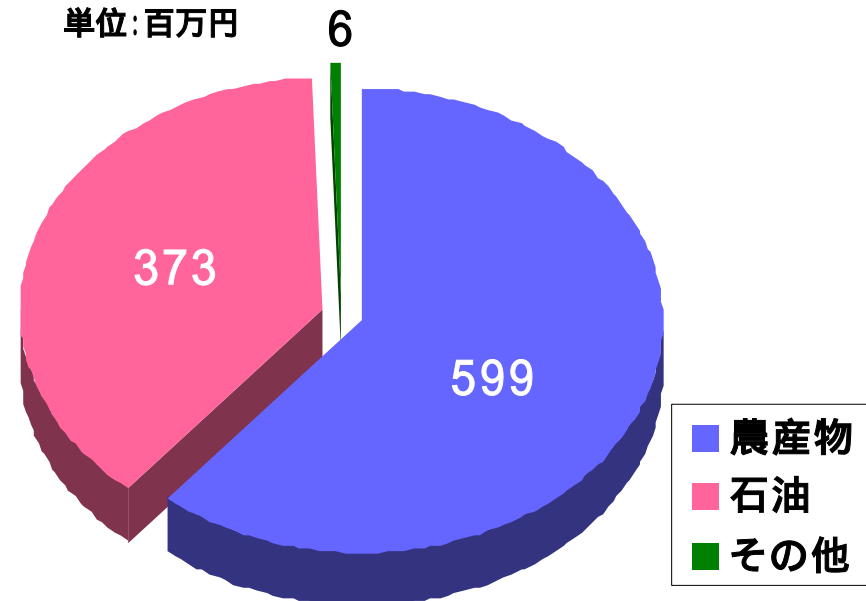
## 受取手数料

単位:百万円



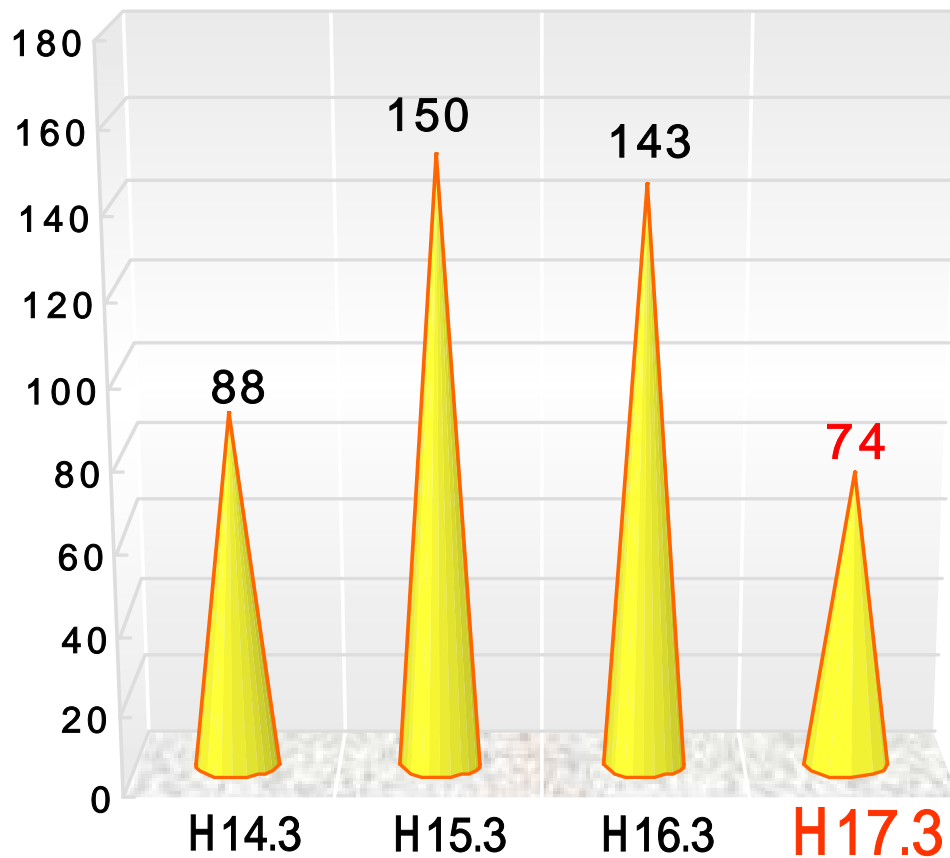
## 自己売買損益

単位:百万円



# ◆ < 外国為替証拠金取引 > 営業収益の推移

単位:百万円



セミナーの開催などで顧客数の増加に努めましたが、取引の小口化などのため左記のとおり減収となりました。

なお、外国為替証拠金取引は、金融先物取引法の改正(平成17年1月施行)により、金融先物取引と認定され、金融先物取引業者の登録が必要となるほか、自己資本規制比率による規制など、同法に基づく規制を受けることとなりますので、これに対する準備を現在進めております。



# 平成18年3月期業績について



# 平成18年3月期業績予想(連結・個別)



## 連結

	営業収益	経常利益	当期純利益
中間期	1,983百万円	410百万円	225百万円
通期	3,966百万円	820百万円	450百万円

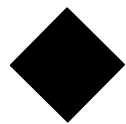
1株当たりの予想当期純利益(通期) 62円76銭

## 個別

	営業収益	経常利益	当期純利益	1株当たり年間配当金		
				中間	期末	
中間期	1,433百万円	266百万円	151百万円	0円00銭	-	-
通期	2,866百万円	532百万円	303百万円	-	15円00銭	15円00銭

1株当たりの予想当期純利益(通期) 42円78銭





# 平成18年3月期業績予想について



改正商品取引所法(5月施行)による勧誘規制の強化に対応し、当社グループは受託業務管理規則を改定し、管理を強化しています。

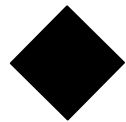
これにより、平成18年3月期の商品先物取引の受託業務に関する受取手数料は、減収の予想(当社については、当連結会計年度並、丸梅株については、当連結会計年度が好調だったため減収の予想)としています。

また、商品先物取引の自己売買業務の売買損益は、

引続き高水準の利益の確保を目指しておりますが、市場動向による変動を考慮して、業績予想では当連結会計年度を下回る数字としております。

なお、営業収益を減収予想とすることに伴い、営業費用の圧縮を図り、利益は、前連結会計年度並を確保できるよう努めて参ります。

当社の業績は、市場動向に左右されるため、結果が業績予想と大きく異なる可能性があります。



# 当社の取り組み



## 1. 商品ファンドの販売開始

…第1号は「スイッチ・ヒッター」(5月30日から販売開始)

## 2. 商品先物取引ホームトレードの強化

…システムの強化・競争力のある手数料設定などを準備中

## 3. 高水準のディーリング収益の維持

…ディーリング要員の育成

## 4. 営業収益に見合った費用構造の再構築

…赤字店舗の閉鎖を含む、コスト見直しの実施

商品先物取引業界を取り巻く環境は、手数料の完全自由化や改正商品取引所法の施行により、当面、やや厳しい状況が続くと思われませんが、BRICsなどの需要増加による原油など国際商品への注目度の高まりや、市場の信頼性向上など取引環境の整備、他業態からの参入などで、中期的には、わが国先物市場は発展していくものと考えております。

当社グループは、サービス向上による顧客満足度のアップに努め、商品先物市場と共に成長を目指します。



**本資料に関するお問い合わせ先**

**株式会社 フジトミ**

**経営企画室**

**E-mail : [keiei-kikaku2@fujitomi.co.jp](mailto:keiei-kikaku2@fujitomi.co.jp)**